

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 15 日現在

機関番号：15401

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2015

課題番号：15K13182

研究課題名(和文)途上国における教師教育者養成・研修モデルの開発のための基礎的・予備的研究

研究課題名(英文)Basic and Preliminary Study for Modeling the Training of Teacher Educators in Developing Countries

研究代表者

丸山 恭司(MARUYAMA, YASUSHI)

広島大学・教育学研究科(研究院)・教授

研究者番号：30253040

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文):途上国における教師教育者養成・研修モデルを共同開発するために基礎的・予備的研究を行った。教職課程研究と教職課程担当教員養成、専門職の養成・研修方法としてのケースメソッド開発、授業研究を中心とした教師教育者研修プログラムの開発と実践の三つを立て、それぞれ国内外の研究者とサブ研究グループを形成し、すでに協力要請のあったドミニカ共和国のサントドミンゴ自治大学及びカンボジアの王立プノンペン大学を訪れて、具体的な共同研究の調整を行った。

研究成果の概要(英文):In order to develop a model of training teacher educators in developing countries, the study preliminarily examined the following three approaches to the model development and organized three sub domestic/international research groups correspondently: (1) research on curriculum development of teacher education and training the instructors of the curriculum; (2) developing case method as professional training; and (3) designing and practicing programs for training teacher educators with the main use of lesson study. The coordinator of the study visited Santo Domingo Autonomous University in Dominican Republic and Royal University of Phnom Penh in Cambodia to arrange the joint research project.

研究分野：教育学

キーワード：教育国際協力 教師教育者 授業研究 ケースメソッド 教職課程担当教員

1. 研究開始当初の背景

(1) 途上国における教師教育の改善へ向けた協力要請

日本の教育は戦後の速やかな復興と経済的成長の一要因であったとして、海外の人々からしばしば学ぶべき対象とされてきた。途上国の教育改善への協力要請に対しては、これに応える責務が日本にはある。広島大学はドミニカ共和国高等教育省より教育改善の協力を要請されて、基幹大学であるサントドミンゴ自治大学に新設された教育科学部のFD活動をサポートしてきた。さらに、カンボジア高等教育省より同様の協力要請があり、基幹大学である王立プノンペン大学教育学部に対する支援が求められた。

(2) 学術的根拠に基づいた教師教育者養成・研修システムを確立することの必要

我が国においても教師教育者養成・研修システムが十分に確立しているわけではない。平成25年度中教審答申において、教職課程担当教員の養成の必要性が指摘されたところであり、教職課程はその内容と教授法に関し、教育的に十分な精査が行われているとは言い難い。研究代表者は平成19年に博士課程後期院生を対象とした「教職課程担当教員養成プログラム」(以下、「教職P」と略記)を広島大学に立ち上げた。教育学研究者の養成と同時に教師教育者の養成を図る当プログラムは、TA制度を利用した教育実習プログラムであり、大学の授業研究である。教育学の根拠を伴う教職課程のあり方を理論的実践的に模索可能な場として本プログラムが利用されることにより、教師教育者の養成・研修モデルの開発に資することが期待されている。

2. 研究の目的

本研究は、途上国における教師教育者養成・研修モデルを共同開発するための準備研究である。目指されるのは次の三点である。

教職課程の内容と方法を精査可能とする枠組みを提出する。

内外の研究者と協議し、共同研究者を選定して問題意識を共有する。

モデル開発に際し顧慮すべき各国の諸事情を調査する。

これらの成果をもとに養成・研修モデルを開発するため研究計画を立てる。

3. 研究の方法

本研究は研究代表者個人による事前調整が中心であるが、適宜、研究組織のなかから調査の協力を求める体制をとる。とりわけ、海外調査はその目的に応じて研究協力者を選定する。次の3つのサブセクションを設けて海外調査を組み入れつつ個別の調整を行うとともに、相互の連携を図る。

(1) 教職課程研究と教職課程担当教員養成

教職P運営団を共同研究組織とし、教育学研究者らとともに、教職課程研究を行う。また、当該養成プログラムの実践を参考にする。

(2) 専門職者の養成・研修の方法としてのケースメソッド開発

昨今、アクティブラーニングの一手法として注目されているケースメソッドは、専門職者を養成する授業方法として開発されたものである。本研究では、教師教育者の養成・研修の方法としてケースメソッドに着目する。教職P運営団とともに、学校ケースメソッド教育研究会およびケースメソッド教育研究所を共同研究組織とする。研究代表者は日本語と英語のケースメソッド授業をそれぞれ広島大学内において担当しており、一定の実績がある。教職P履修生のなかには、研究代表者の指導のもと、ケースメソッドを用いた教育実習授業を試みる者もいる。教職課程の授業法ならびに教職課程担当教員の養成・研修の方法としてケースメソッドの開発に取り組む。

(3) 授業研究を中心とした教師教育者研修プログラムの開発と実践

広島大学では年に数回にわたり、ドミニカ共和国サントドミンゴ自治大学教育科学部に教師教育者の研修使節団を派遣している。新設された教育科学部の組織づくりと授業力の強化を目的に、授業研究の普及を主な手段としてきた。本使節団と上記プログラム運営団を共同研究組織とする。

【海外調査】

サントドミンゴ自治大学教育科学部授業研究促進グループと王立プノンペン大学教育学部設置準備委員会をカウンターパートとし、ドミニカ共和国とカンボジアにおける個別事情の調査と規定諸要因の分析を進める。教育制度、大学および教育学部の組織構造、教師教育者の意識、学生の教師観などを調査する。また、大学教員の養成、教職課程編成原理、教員養成におけるケースメソッド、授業研究の海外普及条件等について、米国の研究者を訪問し助言を得るとともに、タイで開催される世界授業研究協会(World Association of Lesson Studies)に参加し、ネットワークを拓げる。

4. 研究成果

挑戦的萌芽研究である本研究は、途上国の教師教育者養成・研修モデルの共同開発に向けた準備研究として進められた。設けられた3つのサブセクションごとに共同研究者を選定し事前協議を行うとともに、予備的に研究を進め、次の成果を得た。

(1) 教職課程研究と教職課程担当教員養成

教育学の最新知見から教職課程の理論的基盤を明示するとともに、これを教職Pの実

践を通して検証するための研究組織を編成した。研究代表者の個人的研究の成果として教師教育者の実践性の問題を原理的に考察した論考をまとめ、共著書および学術誌に公表した。また、授業研究の枠組みを使い、教職関連授業において教職P履修学生による実習授業が行われた。教職関連授業の一つである「道德教育指導法」のなかで、履修学生の実習授業がケースメソッドで行われ、その効果を吟味した。教職Pがプラットフォームとなり、教職課程研究とケースメソッド開発と授業研究の三者を共創的に進めることができた。さらに、協定大学であるフロリダ州立大学にTA研修として毎年院生を派遣しており、3月にはTAトレーニング責任者のL.リセノと教職課程担当責任者のM.ダニエルを招聘して研究会を開催するとともに、今後の共同研究の進め方について協議した。

(2) 専門職者の養成・研修の方法としてのケースメソッド開発

研究代表者には教職倫理教育の授業方法としてケースメソッドに着目した研究成果があり、上述のように教職Pにおいても指導実績がある。ケースメソッド教育研究所の代表である竹内伸一（徳島文理大学、当時は慶應義塾大学）を今後の開発研究の共同研究者とし、広島大学において数回にわたり協議を行った。竹内は学校ケースメソッド教育研究会との共同研究で中学校道德授業におけるケースメソッド授業の開発にも取り組んでおり、道德の教科化にも応答する教育方法の開発・習得を主題とした研究の可能性を探った。また、米国でケースメソッドによる教師教育を主導するM.サトーを8月に訪れ、共同研究を進めていくことの合意を得た。

(3) 授業研究を中心とした教師教育者研修プログラムの開発と実践

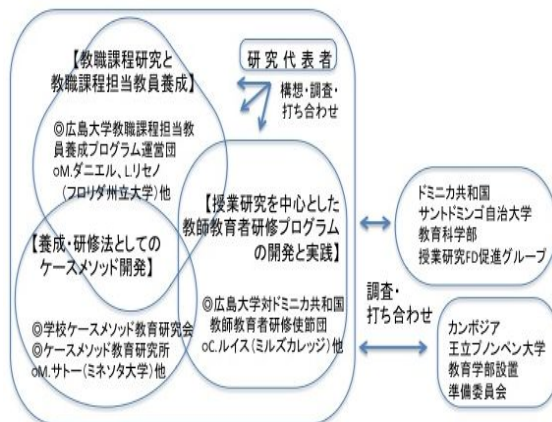
上述のように、教職Pは授業研究をその中心に位置づけてプログラムを運営し、教師教育者を養成してきた。途上国においても教師教育者が授業研究を自ら実践することにより、大学の授業改善とともに、小中高等学校への授業研究の普及ならびに子どもらの学力向上が期待されている。広島大学にはドミニカ共和国に対する支援活動として授業研究への普及取組実績があり、本研究期間中は9月、2月、3月にドミニカ共和国を訪れ、調査・打ち合わせ・ワークショップを行った。現地ではすでに数学、理科、社会科、体育、教育哲学の各分野にチームが形成され、学生を巻き込みながら、大学の授業研究が実行されており、授業研究のトレーニングを受けた大学教員が、授業研究を組み入れた教育実習体制を整備中である。また、サントドミンゴ本校のみならず国内11カ所に及ぶ分校においても全学部に通ずるFDとして授業研究が取り入れられつつある。これらの活動をサポートし、授業研究を普及していくうえでの

留意点を調査した。現地からの要望に応え、「国際版授業研究入門マニュアル」を開発し、ワークショップで利用した。また、10月にタイのコンケン大学において授業研究を主題とする国際学会が開催された。研究代表者はこれに参加し、ドミニカ共和国との共同事業に関わって高等教育における授業研究、とりわけ、途上国の教師教育者を対象とした授業研究の在り方についてC.ルイスやA.タカハシと意見交換を図った。なお、共同事業の成果はイギリスのエクセター大学で開催される次の学会で発表されることが決まっている。

(4) ドミニカ共和国とカンボジアにおける調査

上記(3)で述べたように、ドミニカ共和国において授業研究を取り入れた教師教育者研修プログラムを展開している。この取組を検証し、現地の状況に応じた体制づくりを強化して、より効果の高い展開を今後に期すために、研究協力者として岡村美由規（博士課程後期）を一ヶ月現地に派遣して、資料収集ならびにインタビューによる現地調査を行った。

また、すでにカンボジアにおいて授業研究普及の実績のある桑山尚司を連携研究者とし現地の状況と要望を精密に調査するため9月に王立プノンペン大学を訪問した。カンボジアにおいて学校教員はこれまで主に中等教育学校で養成されてきたが、政府の方針により高等教育レベルでの教員養成が模索されている。学士号をもった教員の養成を目指しており、教職課程の開発とともに、現職教員に学士号を修得されるための研修課程の開発に対する援助が求められた。持続可能な次世代育成システムの構築に向けて、教職課程の整備とともに、教授法のワークショップを開催予定にしている。教職課程担当教員養成プログラムの実践とドミニカ共和国での実践を応用し、授業研究とケースメソッドを導入の可能性を探ることになった。



研究組織と研究進行の概念図

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件)

丸山恭司「教育哲学実践の状況性と再帰性」、『教育哲学研究』、査読無、第 113 号、2016 年、144-145 頁。

桑山尚司、鈴木由美子、木村博一、山崎敬人、竹下俊治、木下博義、小山正孝、影山和也、棚橋健治、草原和博、岩田昌太郎、齊藤一彦、丸山恭司、吉田成章、「国際協力版「授業研究入門マニュアル」の開発(3)」、『平成 27 年度共同研究プロジェクト報告書』、査読無、広島大学大学院教育学研究科、2016 年、85-90 頁。

〔学会発表〕(計 1 件)

MARUYAMA, Yasushi, “Translating the Incommensurable: A Philosophical Reflection on Transferring Lesson Study,” World Association of Lesson Studies, September 3-6, 2016, The University of Exeter (UK).

〔図書〕(計 2 件)

丸山恭司「教育の思想家たち—近代教育の礎はどのように築かれたか」、金龍哲編『現代社会の人間形成』三恵社、2016 年、29-41 頁。

丸山恭司「教育哲学の実践」、小笠原道雄編『教育哲学の課題「教育の知とは何か」—啓蒙・革新・実践—』(教育的思考の作法 5) 福村出版、2015 年、366-381 頁。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

6. 研究組織

(1) 研究代表者

丸山 恭司(MARUYAMA, Yasushi)
広島大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：30253040

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

桑山 尚司(KUWAYAMA, Hisashi)
広島大学・大学院教育学研究科・講師
研究者番号：90379850

(4) 研究協力者

岡村 美由規(OKAMURA, Miyuki)
広島大学大学院博士課程後期

竹内 伸一(TAKEUCHI, Shinichi)
徳島文理大学・人間生活学部・教授

DANIEL, Ella-Mae
Florida State University

LISENO, Lisa
Florida State University

SATO, Misty
The University of Minnesota